

平成 29 年 11 月 20 日

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所

国立研究開発法人 海洋研究開発機構

国立大学法人 北海道大学

北極域研究推進プロジェクト(ArCS)の公開講演会 『北極の未来と科学』を開催します

国立極地研究所(所長:中村 卓司)が代表機関、海洋研究開発機構(理事長:平朝彦)および北海道大学(総長:名和 豊春)が副代表機関を務める北極域研究推進プロジェクト(ArCS、※1)では、2018年1月15日(月)に公開講演会『北極の未来と科学』を開催します。この講演会では、北極研究者が ArCS での最新の研究成果を伝えるとともに、ゲストスピーカーとして科学・産業技術政策論、公共政策論、科学技術と外交を専門とする 角南 篤氏(政策研究大学院大学副学長/笹川平和財団海洋政策研究所所長)、そして地球環境問題や科学と社会の連携に造詣の深い 春日 文子氏(フューチャー・アース国際事務局日本ハブ事務局長/国立環境研究所特任フェロー)を招き、講演を通じて北極域開発の必要性、重要性、持続可能性について考えます。

<開催概要>

2017年度北極域研究推進プロジェクト公開講演会 in ISAR-5(※2)

『北極の未来と科学』

日 時 : 2018年1月15日(月)17:00~19:30(16:30 開場)

場 所 : 一橋講堂(東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター2F)

共同主催 : 情報・システム研究機構 国立極地研究所、海洋研究開発機構、北海道大学

後 援 : 北極環境研究コンソーシアム(JCAR)

参加方法 : ウェブサイトからの事前申し込み制

(<http://www.arcs-pro.jp/20180115kouenkai/>)

先着 400 名、参加無料

主な対象 : 大学生以上の一般

内 容 :

◇ゲストスピーカーによる講演

- ・北極域の『危機』 ~『危うさ』と『機会』のバランスを求めて~

角南 篤氏(政策研究大学院大学 副学長/笹川平和財団 海洋政策研究所 所長)

- ・持続可能な地球の未来と北極

春日 文子氏

(フューチャー・アース国際事務局日本ハブ 事務局長/国立環境研究所 特任フェロー)

◇ArCS 参加研究者による講演

- ・北極域環境の実態把握と将来予測

羽角 博康(海洋研究開発機構 招聘上席研究員／東京大学大気海洋研究所 教授／
ArCS テーマ 5 実施責任者)

- ・北極域先住民の文化と日本・世界をつなぐための創造力

高倉 浩樹(東北大学 東北アジア研究センター センター長・教授／
ArCS テーマ 7 実施担当者)

<注>

※1. 北極域研究推進プロジェクト

(ArCS: Arctic Challenge for Sustainability)



2015 年 9 月から始まった文部科学省の補助事業です。国立極地研究所及び海洋研究開発機構、北海道大学の 3 機関が中心となって、急変する北極域の気候変動の解明と環境変化、社会への影響を明らかにし、内外のステークホルダーが持続可能な北極の利用等の諸課題について適切な判断を可能とする精度の高い将来予測や環境影響評価等を行うことを目的としています。

北極域研究推進プロジェクトのウェブサイト <http://www.arcs-pro.jp/>

※2. ISAR-5

第 5 回国際北極研究シンポジウム(Fifth International Symposium on Arctic Research)。世界各国の様々な分野の北極域研究者が一堂に会して科学的研究成果について議論するとともに、解決すべき課題を抽出して知見を共有し、将来の北極の姿を探ることを目的とする学術集会で、2018 年 1 月 15 日～18 日の間、一橋大学一橋講堂で開催します。本公開講演会は ISAR-5 の初日に実施します。

ISAR-5 のウェブサイト <https://www.jcar.org/isar-5/>

別紙資料

公開講演会ちらし

お問い合わせ先

(報道について)

国立極地研究所 広報室

TEL: 042-512-0655 FAX: 042-528-3105 E-mail: kofositu@nipr.ac.jp

(北極域研究推進プロジェクトに関して、講演会の内容について)

国立極地研究所 国際北極環境研究センター

柿本 晃治郎(かきもと こうじろう)／辻 勇気(つじ ゆうき)

TEL: 042-512-0915 E-mail: arcs@nipr.ac.jp

北極の未来と科学

2018年 1月 15日 (月)
17:00 ~ 19:30 開場 16:30



—北極域の持続可能な開発とは？
—科学は何を目指し、どのように関与しようとしているのか？
政策論や地球環境問題のスペシャリスト、
そして北極研究の最前線に立つ研究者とともに考えてみませんか？

グリーンランド・カナック周辺 (撮影：北海道大学 杉山慎)

一橋講堂

東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター 2F
東京メトロ半蔵門線、都営三田線、都営新宿線 神保町駅 (A8・A9 出口) 徒歩 4分
東京メトロ東西線 竹橋駅 (1b 出口) 徒歩 4分

参加無料 先着 400名様



■共同主催



■後援



■申込・詳細▶▶



北極の未来と科学

2015 年秋に開始した北極域研究推進プロジェクト (ArCS)、3 回目の公開講演会は、北極域の持続可能性とはどうあるべきかを考えます。北極域開発の必要性や重要性について、政策および科学と社会の連携といった広い視点からお話しするとともに、科学はそれらに対しどのような根拠を提供できるのか、最新の研究成果を交えてご紹介します。

●ゲストスピーカーによる講演

北極域の『危機』～『危うさ』と『機会』のバランスを求めて～

17:15 - 17:40



角南 篤 (政策研究大学院大学 副学長/笹川
平和財団 海洋政策研究所 所長)

北極域開発の重要性、そして北極域の開発が持続的に行われる必要性和、それに伴う危険性についてお話しします。

持続可能な地球の未来と北極

17:40 - 18:05



春日 文子 (フューチャー・アース国際事務局
日本ハブ事務局長/国立環境研究所 特任フェ
ロー)

社会や産業の発展と地球環境の双方の持続可能性を追求するために、科学者と社会はどのように協働すべきかについてお話しします。

●ArCS 参加研究者による講演

北極域環境の実態把握と将来予測

18:25 - 18:50



羽角 博康 (海洋研究開発機構 招聘上席研究員
/東京大学 大気海洋研究所 教授/ ArCS テー
マ 5 実施責任者)

北極域環境の変動は日本を含む中緯度地域や全球に及びます。その関係や、長期気候変動予測とのつながりについてお話しします。

北極域先住民の文化と日本・世界をつなぐための創造力

18:50 - 19:15



高倉 浩樹 (東北大学 東北アジア研究センター
センター長・教授/ ArCS テーマ 7 実施担当者)

北極域の環境変動によって、そこに暮らす先住民の社会制度や生産活動がどのような影響を受けているのかについてお話しします。



司会
室山 哲也氏 (日本放送協会 解説委員)

※プログラムは都合により変更する場合があります。



一橋講堂

東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター 2F
東京メトロ半蔵門線、都営三田線、都営新宿線 神保町駅 (A8・A9 出口) 徒歩 4 分
東京メトロ東西線 竹橋駅 (1b 出口) 徒歩 4 分

■お問い合わせ先

情報・システム研究機構 国立極地研究所
国際北極環境研究センター
e-mail: arcs@nipr.ac.jp TEL: 042-512-0915

■申込・詳細

<https://www.arcs-pro.jp/20180115kouenkai/>

